

第7回栃木活性化サロン テーマ「地域資源を活用した栃木県の活性化について」 ～農業の6次産業化を踏まえて～

◇ 平成31年1月30日開催

◇ ゲストスピーカー 関東農政局栃木支局長 滝沢 秀樹氏

「農林漁業の6次産業化について」

1. 6次産業化の概要

- 6次産業化とは、1次産業としての農林漁業と2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組み。
- 6次産業化に取り組む際には、生産、加工から流通・販売に至るまでのバリューチェーンを構築し、農林水産物の生産をはじめ、加工、流通・販売のそれぞれの段階において、付加価値を高める工夫が重要。
⇒新たな6次産業化の取組みには、総合的な経営力が必要不可欠。

2. 市場規模と支援策について

- 6次産業化の市場規模は緩やかに拡大中で、平成28年度の加工・直売の売上げは約2兆2千億円。
- 農林水産省では、地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等を促進するために「六次産業化・地産地消費（平成23年施行）」を制定し、農林漁業者等の策定した総合化事業計画を認定し、各種法律の特例対象とするほか、補助金や交付金の補助、ファンドによる出資、6次産業化プランナーの派遣等による支援を実施。
- 総合化事業計画の認定状況は、全国で約2,400件で、栃木県内では52件（平成30年12月）。
- 総合化事業計画の認定事業者は、8割近くが認定申請時と比較し、売上が増加している。

3. 栃木県内の事例

- 那須町の(有)那須高原今牧場では、牧場内にチーズ工房を整備し、自ら生産した牛や山羊の生乳を活用したチーズの製造・販売を行い、「那須高原の牧場産チーズ」のブランド化を図っている。今後は、レストラン等への食材提供に加え、首都圏の百貨店を中心に販路拡大を行い、リピーターの確保を目指す。
- 矢板市の加藤農園では、自ら生産したりんご、キウイフルーツ等の果物を原料に加工した「ジャム」「りんごコンポート」を製造し、直売所、百貨店、アンテナショップやインターネット等で販売を行っている。29年1月に法人化し、さらなる経営の発展を目指している。
⇒その他にも地方公共団体のふるさと応援寄付金の贈呈品として、知名度を上げて販売している取組みもある。